

燃料安全研究国際会議 2007(Fuel Safety Research Meeting 2007) －軽水炉燃料の事故時挙動評価に関する研究成果の報告－ の開催について

独立行政法人日本原子力研究開発機構は、以下の通り「燃料安全研究国際会議 2007 (Fuel Safety Research Meeting 2007)」を開催しますので、ご案内いたします。

軽水炉の安全確保のためには、万が一の事故条件における燃料の安全性を確認することが不可欠です。現在、我が国を含め世界各国において、使用済燃料の発生量抑制や経済性向上のために燃料の高燃焼度化が進められており、これに対応した安全性の確認などに必要な事故時燃料挙動に関する知見の取得が重要なテーマとなっています。

この会議では、原子力機構から燃料安全研究の成果を、また、米国、フランスなど欧米各国の専門家から事故時の燃料挙動、高燃焼度燃料挙動などの研究成果を発表し技術的な討論及び情報交換を行います。

記

1. 開催日:平成 19 年 5 月 16 日(水)～17 日(木)
2. 開催場所:茨城県那珂郡東海村白方白根 2-4
独立行政法人日本原子力研究開発機構
東海研究開発センター 原子力科学研究所 先端交流棟大会議室
3. 主催:独立行政法人日本原子力研究開発機構
4. 内容:別添プログラムのとおり
5. 参加料:無料
6. 参加申込:参加希望の方は、氏名、所属、連絡先を明記のうえ、5 月 9 日(水)までに、FAX(029-282-5429)又は電子メール fsrm@ml.jaea.go.jpにてお申込下さい。
7. 問合せ先:安全研究センター燃料安全評価研究グループ TEL:029-282-5954
8. その他:お車でご来場の方はナンバーの事前登録が必要になりますので、申込み時にお知らせ下さい。

以上

燃料安全研究国際会議 2007プログラム

5月16日(水)

- 9:30～10:20 開会挨拶** 野村 正之(原子力機構)
更田 豊志(原子力機構)
- ・原子力機構における燃料安全研究
- 10:20～17:30 反応度事故時の燃料挙動**
- ・RIA 基準に関する USNRC の見解 J. Voglewede (NRC・米)
 - ・RIA 基準に関する米産業界の見解 R. Montgomery (ANATECH・米)
 - ・RIA 及び LOCA 基準に関する仏産業界の見解 N. Weackel (EDF・仏)
 - ・高燃焼度燃料ペレットの RIA 時熱応力解析 鈴木 元衛(原子力機構)
 - ・高燃焼度 LWR 燃料からの RIA 時 FP ガス放出 笹島 栄夫(原子力機構)
 - ・高燃焼度燃料の PCMI 破損に関する研究成果 杉山 智之(原子力機構)
 - ・MOX 燃料の RIA 時挙動に関する研究成果 梅田 幹 (原子力機構)
 - ・RIA 時の被覆管初き裂先端における応力拡大係数 宇田川 豊(原子力機構)
 - ・CIP0-1 及び VA-2 実験の解析 V. Georgenthum (IRSN・仏)
 - ・高温カプセルを用いた NSRR 実験 杉山 智之(原子力機構)

5月17日(木)

- 9:30～13:40 冷却材喪失事故時の燃料挙動**
- ・模擬 LOCA 条件下における高燃焼度燃料被覆管の挙動 永瀬 文久(原子力機構)
 - ・高燃焼度燃料被覆管の酸化挙動に関する研究成果 中頭 利則(原子力機構)
 - ・ハルデンにおける LOCA 実験 W. Wiesenack (OECD Halden)
 - ・LOCA に関して提案された USNRC-RES 脆化基準(10 CFR 50.46) M. Billone (ANL・米)
 - ・USNRC の LOCA 脆化基準改訂に関する技術的根拠 M. Billone (ANL・米)
- 13:40～16:30**
- ・高燃焼度燃料解析コード FEMAXI の拡張 鈴木 元衛(原子力機構)
 - ・照射燃料の結晶格子歪み変化 中村 仁一(原子力機構)
 - ・JMTR の照射試験計画 中村 武彦(原子力機構)
 - ・JMTR 照射施設の開発 扇柳 仁 (原子力機構)
 - ・燃料からの放射性物質放出に関する VEGA 計画から得られた研究成果 工藤 保 (原子力機構)
- 16:30～16:45 閉会挨拶** 石島 清見(原子力機構)